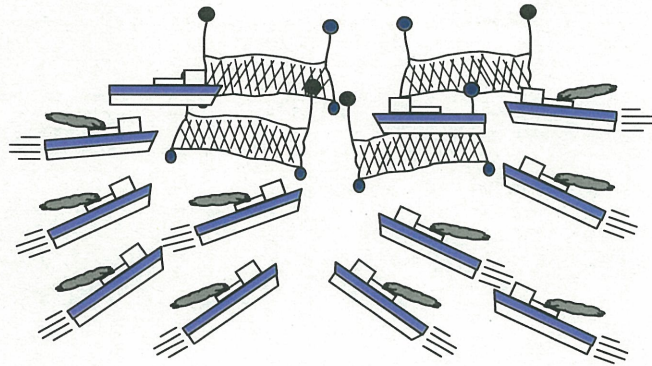


省エネ型操業転換計画の取組事例（刺し網）

①現状

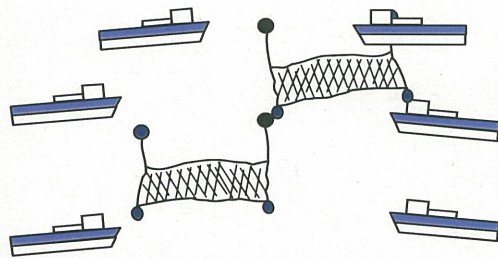


- ・全船が毎日出漁
- ・狭い漁場に刺し網、刺し網漁船が密集
- ・好漁場を確保するため全速力で好漁場へ直行

・燃油高騰により、採算が急激に悪化

・減船を行おうにも、支援がないと不可能

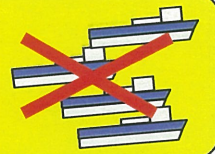
②省エネ型操業転換計画



- ・減船による操業隻数の削減
- ・小グループ毎に出漁日を取り決め（ローテーション制）
- ・燃油消費の少ない速度で漁場へ
- ・必要に応じ、収益を一定のルールに基づき各漁業者に配分するプール制を導入

国の支援により
減船推進

減船

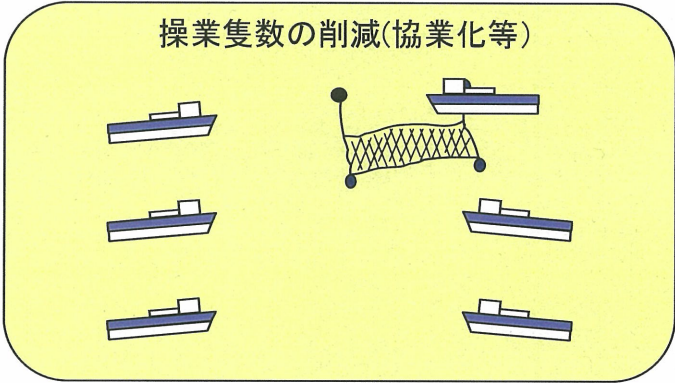
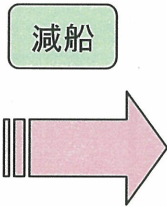
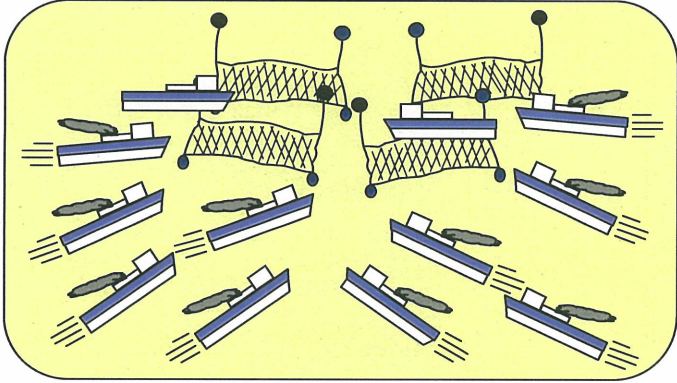


グループ全体の
操業合理化
により
燃油高騰
を乗り越える

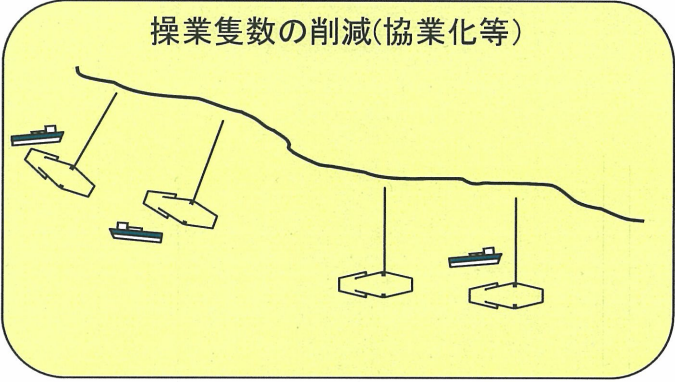
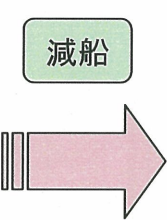
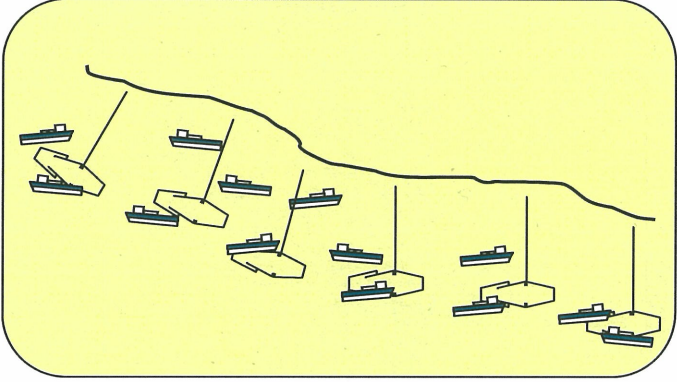
省エネ対策減船事業取組

○ 漁場利用を合理化し、漁場における競争軽減により
燃油高騰に対応できる省エネ型操業を実現する。
(競争軽減のために行う減船について残存船価に応じて助成)

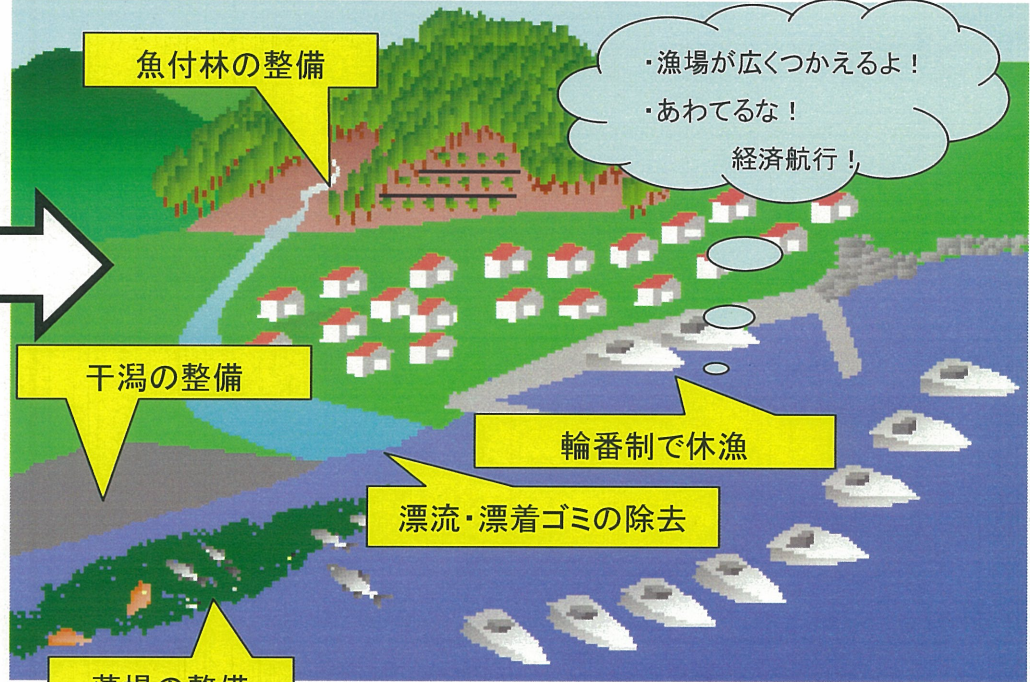
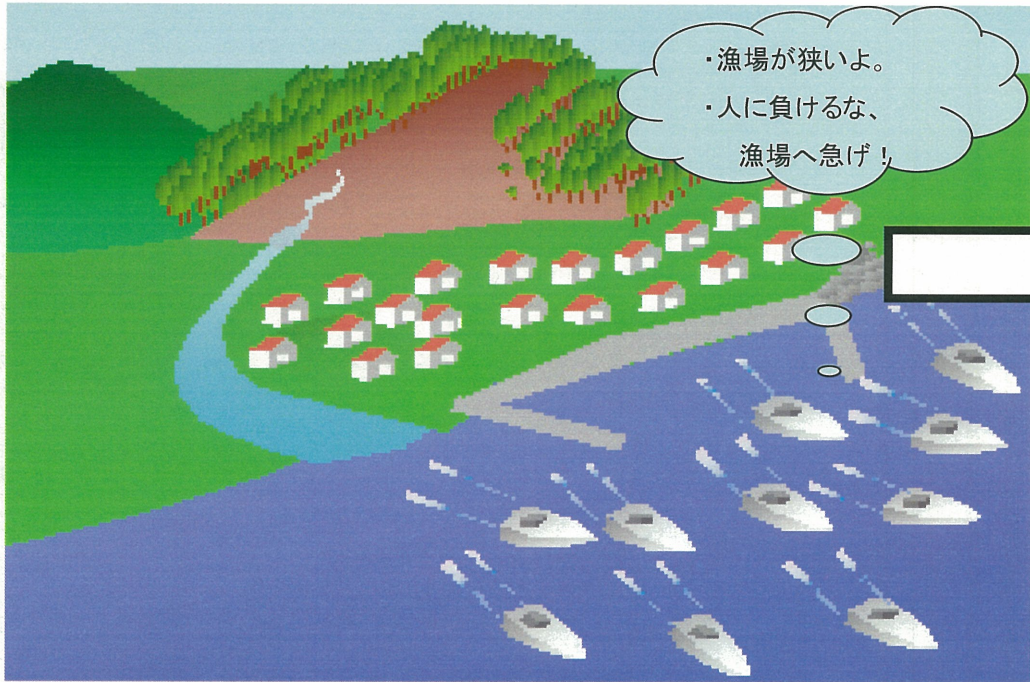
刺し網



定置網

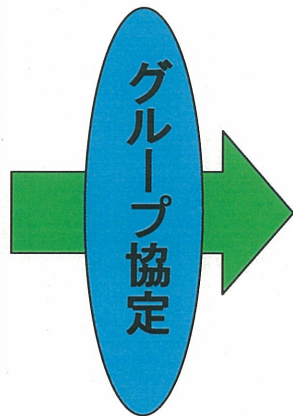


(3) 省エネ推進協業体活動支援事業



浜の声！

- ・燃油が高くて操業できないぞ！
- ・魚価が安いぞ！
- ・水揚げが途切れると、加工の仕事が無くなるわ！パートの仕事を守って！
- ・水揚げが無くなれば、地域が寂れるぞ！
- ・休漁したら、どうやって生活するの？陸(おか)の仕事も減ったし。



- ・輪番制で休漁。燃油消費量の減少。
- ・休漁船の分だけ水揚げ減。供給減による魚価のアップ期待。
- ・水揚げは少し減っても、供給継続。雇用も継続。
- ・藻場、干潟の整備などにより、漁業生産力の向上が図られ、1操業当たりの効率性向上



将来の漁獲物プール制、協業化、魅力ある地方の維持